

まはし

「主の怒りの日に」

「主を求めよ。地の苦しむすべての者たち 主の法を行った者たちよ。

義を求め、謙遜を求めよ。主の怒りの日に あるいは、かくまってもらえるであろう。」

(ゼファニヤ書 第2章3節・旧約聖書1448頁)

はじめに

ダビデが統一した王国ですが、代々の王の信仰によって激動します。南北分断後、まず北王国がアッシリアに滅ぼされ、その勢いが南ユダ王国にも及びます。この時、イザヤに支えられたヒゼキヤ王は民と心を合わせ、「静まって私が神であることを知れ」との信仰に立ち、奇跡的に勝利します。しかし、その子マナセは信仰者も迫害、ことごとく主に逆らい、在位45年の間に信仰は完全に失われます。次王アモンも父マナセを踏襲し、最悪な霊的状态に陥ります。ところが、このアモンが家臣たちの謀反によって殺害され、8歳のヨシヤが王となり、そしてこのヨシヤが空前絶後の宗教改革、リバイバル運動を起こすこととなります。

実は、この一連の信仰回帰には、このゼファニヤが大きな役割を果たしていたと思われます。今日は、私たちの信仰を、このゼファニヤの預言によって強めていただきたく思います。
あるようでないような信仰

悪政が50年も続くと、本当の信仰がどんなものか分からなくなります。歴史のない教会は、長年信仰を守り続けてきたすばらしい信徒がおられず、何か問題があると、揺れ動く状態を受け止められないで、教勢が衰退するのが常です。このゼファニヤの預言は、そのような信仰といえるものがあるようなないような中で、その信仰を振起させるために語られた言葉なのです。

求めよ

まず、眠っていた魂を呼び起こします。主の

怒りの日を意識させ、「このまま、神に背を向けていたら、心が死んでしまう」と、あなたの姿勢に自覚を促しているのです。そして「主を求めよ」と語るのです。今までも苦しい中でよく信仰を守ってきた、主の言葉を聞いて守ろうとしてきた。だが求めが足りない。もっと必死に求めるようにと語ります。主イエスも言っています。「まず神の国と神の義とを求めなさい」(マタイ6:33)。それが祝福を受ける最初の一步であり、終始一貫した信仰の姿勢だからです。かくまってもらえるだろう

ただ、これだけ「求めよ」と勧めているのになぜ「あるいは」なのでしょう。実は、この「あるいは、～かもしれない」は、人が神に対して執り成す時に使われています。アブラハムに対するロトへの執り成し、金の子牛を作ってしまった者たちへのモーセの執り成し、不信仰なユダの民たちへのエレミヤの執り成し。自分の努力ではなく、神の前に、「このような者たちですが、どうぞ救ってください。」との執り成しがこの言葉には隠されているのです。

誰が、信仰の薄い私たちのために執り成してくださっているのでしょうか。主イエスです。「私は信仰がなくならないように、あなたのために祈った」(ルカ22:32)と、裏切ることになるペトロのために祈ったように、私たちも、執り成されているのです。なお深く、主の救いを求めて行きましょう。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈い

「恥を知らぬ国民よ 集まれ、共に集まれ。もみ殻のように追い散らされ 吹き飛ばされないうちに。

主の燃える怒りが来ないうちに。主の怒りの日が来ないうちに。

主を求めよ。地の苦しむすべての者たち 主の法を行った者たちよ。義を求め、謙遜を求めよ。主の怒りの日に あるいは、かくまってもらえるであろう。」(ゼファニヤ書 2:1～3)

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる。」(マタイ 6:33)

「私は信仰がなくならないように、あなたのため

めに祈った。だから、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ 22:32)



私は信仰を持っていると思っていましたが、それは主から見たら、薄いものであるのかもしれませんが、どうぞ、私がこの時代に流されず、もっと深く信仰を持つことができるように、自分の信仰のなさをわからせ、さらに熱心に求める者にならせてください。弱い私たちのために

執り成してくださっている主がおられることを感謝いたします。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (26) 第1章29～31節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「彼らが知識を憎み 主を畏れることを選ばず 私の忠告に応じず 懲らしめをすべて軽んじたからだ。彼らは道端の果実を食べ 自らの計画に満足している。」

◎口語訳 「彼らは知識を憎み、主を恐れることを選ばず、わたしの勧めに従わず、すべての戒めを軽んじたゆえ、自分の行いの実を食らい、自分の計りに飽きる。」

◎新改訳 「なぜなら、彼らは知識を憎み、主を恐れることを選ばず、わたしの忠告を好まず、わたしの叱責を、ことごとく侮ったからである。それで、彼らは自分の行いの実を食らい、自分のたくらみに飽きるであろう。」

「私を見いだせない」

苦難や困難は突然襲ってきます。その時に慌てふためき、「神さま」と叫んでも、神さまの助けを見いだすことはできません。「知恵を拒絶した」からです。

この知恵を拒絶する態度をより明確に記したのがこの箇所です。

「知識を憎み」。これは神さまからの知恵や交わりを絶つことによって生まれる状況を指しています。ヨセフは神さまの前にまっすぐに向かいこうとするあまり、憎まれてしまいます(創

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
 - c アグルの言葉 (30:1～33)
 - d レムエルの言葉 (31:1～31)

世記 37 章)。他の兄弟への配慮が欠けていたことは確かなのですが、神に向かう姿勢があまりにも潔いため、この世との妥協があつていいと考える者にとっては、邪魔に思えるのです。「主を畏れることを選ばず」。自己中心の極みです。自分の都合を押し通したいからです。「忠告に応じず」も同様です。「懲らしめを軽んずる」、悔い改めのない傲慢な態度を指摘されています。そのような生活には成長も希望も、また可能性も見いだせないのに自己満足し、失敗すれば他人への責任転嫁するようになります。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

テトスへの手紙第2章11節「実に、救いをもたらす神の恵みはすべての人に現されました。」◆「すべて」という言葉を聞いても、自分を除外していたり、あの人はだめだろうと、「すべて」にしよとしない人がいる。私たちは他人を選び好むするが、神はすべての人間を愛する対象としている。「すべての人を救う」から「恵み」なのである。自分の性質も恵みをふれるほどいただきながら変えられていく。だから救われて欲しいと思っている人は必ず神の恵みにあずかることができる。私はそう信じているし、必ず慰めはもたらされるのである。

●賛美 / 238 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

テトスへの手紙第3章6節「神は、この聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストを通して、私たちに豊かに注いでくださいました。」◆クレタの人たちのまがった性質を変えられるのは、クレタの人たちの努力ではない。またテトスの力でもない。聖霊の力をお頼りして、はじめて変えられていくのである。聖霊がそのような情けない弱い私たちのために「言葉に表せない呻きをもって執り成してください」（ローマ8:26）。私たちがどう祈ったらいいかわからなくても、このとりなしがあるから、私たちは変えられるのだ。

●賛美 / 239 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会（聖書配布）、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

ファイルモンへの手紙第1章11節「彼は、かつてはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにも私にも役立つ者となっています。」◆過去の過ちを消し、失った信頼を取り戻すことは容易ではない。オネシモは過ちを犯し、逃亡してローマまで流れてきた。だが彼はそこでパウロによってキリストに導かれる。悔い改めの機会が与えられ、新しい人生が始まった。オネシモは、それから一生懸命パウロに仕えていたのだろう。だが、パウロは、元の所に戻るように勧めた。その時、「役立つ者になっている」と主人ファイルモンに推薦してくれたのである。

●賛美 / 240 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点祝福され、用いられるように。（まきば、小山宮下事務所、向陽町）

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

ヘブラ人への手紙第1章2節「この終わりの時には、御子を通して私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者と定め、また、御子を通して世界を造られました。」◆神がどのような方で、私たちとどのような関係があるのか。それを明らかにすることを「啓示」という。人々は自然や歴史などを検証していくことで神を感じるが、特別な啓示として、神は、聖書とイエス・キリストをこの世に与えられた。終わりの時とは、今のこの時代を言っているが、私たちが神を知り、真理を知るためには、この聖書とイエス・キリストを知ることこそがその道なのである。

●賛美／241 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席の平均が40名以上となり、受洗者が3名以上与えられるように祈りましょう。

ヘブラ人への手紙第2章17節「イエスは、神の前で憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を宥めるために、あらゆる点できょうだいたちと同じようにならなければなりません。」◆ユダヤ人たちは、神との間をとりもつ祭司が必要不可欠だった。だが、祭司が神に罪を執り成す、その役割が不完全なことはだれもが知っていた。人は神とつながっていなければならないが、この絆が結ばれていないために、不幸なのである。神と人とを完全に結びつけることができるお方、それが真の大祭司キリストであり、私たちの命綱となってくださる方なのである。

●賛美／242 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

ヘブラ人への手紙第3章13節「あなたがたのうち誰一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、『今日』という日のうちに、日々励まし合いなさい。」◆心がかたくなになると、何を語っても受け入れられなくなってしまう。なぜ心がかたくなになるのか。ここでは「罪の惑わし」としている。これは神の方を向こうとするのとは逆に働く力であり、真理に従って行くよりも安易な、またあいまいな態度をとっていく方がいいのだと植えつける力である。「私たちは、何事も真理に逆らってはできませんが、真理のためならばできます」（コリント二 13:8）。

●賛美／243 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

ヘブラ人への手紙第4章16節「それゆえ、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に適った助けを受けるために、堂々と恵みの座に近づこうではありませんか。」◆口語訳では、「はばかりことなく」だった。これを悠長に考えてはならない。この箇所はせつば詰まった状況で語られている。すなわち、「神の目に裸（何も隠し事はできない）であり、逃れることはできません」（13）。私たちの罪が裁かれようとし、もはや言い開きができない、だから、ためらっていないで、早く自分の罪をイエス・キリストによって赦していただきなさいとの勧告なのである。

●賛美／244 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【ルカによるふくいんしよ 7:1~10】

「たいちょうのしんこう」

(ルカ 7:7)

イエスさまのいくところは どこも おおくのひとたちが あつまってきました。なかでも、びょうきを なおしてほしいひとが たくさんきていました。そのなかには かみさまへの しんこうもなく、ただ びょうきが なおれば いいとおもって きていたひと も います。イエスさまは あつまってくる ひとたちの ころも わかっていましたから、ときには おなおしにならないときもありました。

あるひのことです。イエスさまが カファルナウムに もどって こられると、ローマじんのへいしの たいちょうから たのまれてきたという ひとたちが イエスさまに こういいました。「たいちょうの しもべが びょうきで しにかけられています。たいちょうは、イエスさまに なおしていただけるから たのんでくるように と わたしたちに たのみました。このたいちょう

は、ローマじんですが、かみさまを あつくしんじている りっぱなひとです。どうぞ ねがいを おききください」。

そこで イエスさまは ローマじんの たいちょうの いるところに むかっていきました。

たいちょうは「イエスさまが ちかくまで こられた」と きくと、ひとをおくって こういわせました。「イエスさまが くるには およびません。ただ おことばを ください。そうすれば しもべは なおります。わたしは へいしの たいちょうですが、わたしが めいれいをする、へいしたちは そのように うごきます。かみさまのおことばは それいじょうに けんいがあることを しています。ですから、けんいあるかみの ことばを いただくなら、きっと びょうきは なおります」。

イエスさまは それを きいて とても おほめになりました。「そのとおりです。これだけの りっぱなしんこうを みたことがない」。

みことばには ちからがあります。かみさまのおことばだからです。しんじましょう。

●かんがえてみよう

☆ローマじんの たいちょうは、イエスさまに なにをしてほしかったのですか。

(ルカ7:2)

☆このたいちょうは イエスさまの ところに たのみに いったのでしょ
うか。(ルカ7:3、6)

☆たいちょうの しもべは どのようにして なおったのでしょうか。(ル
カ7:7)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりますが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

おごじばをください

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|----|---|---|
| | を | と | | | | おい | だ | |
| お | | さ | ど | | い | を | こ | ば |
| こ | い | ば | だ | お | | | | |
| さ | こ | | く | い | | | | |
| い | | | ば | を | お | | | こ |
| と | ば | を | | | こ | い | お | く |
| | | こ | い | | | だ | を | お |
| | | | お | ば | だ | | く | さ |
| だ | | | | こ | さ | と | | い |

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① とろなおくいとこ
- ② のべたわししも
- ③ ろうそくご
- ④ たへいい

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「いよいよ」

いよいよ第101回箱根駅伝が近づいてきました。10月19日に予選会があったのですが、今年は「残念」の一言ではすまないような結末が待ち受けていました。

前評判では立教、中央、東海は当確とされており、立教、東海はとりあえずキリスト教系なので応援していました。仕事を終え、その夜、ネットニュースを開いて最初に目に入ったのは、「東海、『もう一度鍛えなおす』」との見出し。その時も10位以内

には入ったのだろうと思っていたので、「あまりふるわない成績だったので、本戦に向けて気を引き締める」のようなコメントだと、一旦は受け止めたのですが、待てよと、順位を確認したところ、なんと14位。驚きました。詳しく調べると、タイムに反映する10番目で走っていた選手がゴール10メートル手前で棄権したとありました。もし、そのままゴールしていれば8位相当だったようですが、次の11番目(結果的には10番目ですが)の選手が遅かったことで、落選になったのでした。残念でした。

10位順天堂と11位東農大との差は1秒。これも非情です。柔道などとは違い、時計を使うスポーツは結果が明確に出てきます。そこが面白いところではあるのですが。

聖書ふれあい街歩き

●ハマト

相模原に圏央道が開通したことで、一般道に下りることなく中央道、東名、そして上越、東北それぞれの高速道路に行くことができるようになりました。そうしたアクセスの良さに目をつけたのか、この数年、大きな物流倉庫がいくつもできました。もともとインター近くは工業団地で、良い条件が重なったのだと思います。

さて、ユダ王国はソロモン王の在世時に最盛期を迎えたわけですが、記述によると、盛んに貿易も行われており、国土の最南端にあって紅海に面するエツヨン・ゲベルとエイラは東方からの交易品の輸出入をするための船団が存在していました(歴代下8:17~18)。また地中海に面していたティルス王ヒラム(フラム)との共同事業としても船団を組み、西方へと向かわせています(列王下9:21)。ですから、各地に「倉庫の町」を作りました。その中の一つがハマトです。「あらゆる倉庫の町」(歴代誌下8:4)とあるので、町全体に物流倉庫が建てられていたのかも知れません。英訳の中には「補給基地(サプライセンター)」と訳しているものもありましたから、AMAZONの物流センターをイメージしてしまいます。ソロモンのことですから、何でもあったに違いありません。

ななめ聖書 先週のこたえ

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| じ | の | そ | ん | お | く | ば | に | ぶ |
| く | お | ぶ | ば | に | そ | ん | の | じ |
| ば | に | ん | ぶ | じ | の | く | お | そ |
| お | ぶ | に | じ | ば | ん | の | そ | く |
| そ | く | ば | の | ぶ | に | お | じ | ん |
| ん | じ | の | そ | く | お | ぶ | ば | に |
| ぶ | ん | じ | に | の | ば | そ | く | お |
| に | ば | く | お | そ | ぶ | じ | ん | の |
| の | そ | お | く | ん | じ | に | ぶ | ば |

- ①かみなりのこら
- ②そばにおく
- ③ばるとろまい
- ④けんのう



ユダヤ人たちの訴え

しかし、ユダヤ人たちはそれを妬み、広場にたむろしているならず者たちを抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして搜した。

しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人のきょうだいを町の当局者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。ヤソンが彼らを家に泊めています。彼らは皆、皇帝の勅令に背き、『イエスという別の王がいる』と言っています。」

これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。当局者たちは、ヤソンやほかの者たちから保証金を取ったうえで彼らを釈放した。

(使徒言行録17:5～9)



皇帝クラウディウス(在位AD41～56)

【二人は見つからなかった】

「町の当局者」とは、治安維持のために置かれている警察のような組織だったと思います。ユダヤ人たちは「ならず者たちを抱き込んで暴動を起こし」、その勢いでパウロとシラスを血祭りに上げようと考えました。その時点で、自分たちが騒乱の対象者になっているのですが、それを棚に上げて当局に訴えに出るわけです。

大勢が詰めかけたでしょうが、ヤソンの家にいると思われた2人が見つかりません。おそらく、不穏な空気を察した支援者が2人のもとに急ぎ伝え、暴徒たちが来る前にどこかにかくまったものと思われます。「きょうだいたちは、直ちに夜のうちにパウロとシラスをベレアへ送り出した」(10)とあることから、襲撃はパウロたちの在宅を狙った夜に起こったと考えられ、ヤソンの家から手引きされた2人(テモテ、ルカもでしょう)は、そのままヤソンの家には戻らず、ベレアに向かったのでしょう。

【訴えた理由】

さて、ユダヤ人たちは2人をどのように訴えるつもりだったのでしょうか。ひとつは「世界中を騒がせてきた」です。町の秩序の安定は自治にとって最も大事な部分です。「世界中」という大げさな形容に悪意を感じますが、どんなことをして騒がしてきたのか、具体的な内容も伴っていませんので、ユダヤ人たちもこれだけでは訴える根拠もあいまいだと思ったのが、二つ目の理由に、統治者である「カイザルへの反逆」をねつ造しました。この訴えはフィリピではなかったものです(使徒16:20～21)。

「皇帝の勅令」とは、「皇帝以外を主(キュリオ

ス)と呼んではならない」との皇帝崇拜事項を指していると考えられます。パウロの説く教えはイエスを主、さらには王としてと崇めており、勅令に背いているとの訴えです。

主イエスも同様の経験をされています。

「議員たちは…イエスをこう訴え始めた。『この男はわが民を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っております。』」…それに対し、…ピラトがイエスに、「お前はユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることだ」とお答えになった。」(ルカ23:2～)。「ピラトはイエスを釈放しようとする。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。『もし、この男を釈放するならば、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。』」(ヨハネ19:12)

ピラトはこの一言があったことで、主イエスの十字架を許可せざるを得なくなったのでした。

ユダヤ人たちがヤソンを連れて訴えてきた時、「動揺した」とあります。この語は「混乱した」「迷惑した」「困惑した」といった意味もあります。連行されてきた者が当人でないばかりか、取り調べもしていません。訴えについても「皇帝への反逆罪」など自分たちの扱えるレベルを超えているわけです。怒号が飛び交う中、どう判断したら良いか、にわかにわからなかった当局者は、とにかくこの騒ぎを収めなければならないと、「保釈金」を払わせて釈放という曖昧な解決方法を提示したのです。この「保釈金」は必ずしも金員ではなく、「誓約書」だった可能性があります。

ピラトもそうですが、上に立つ者は一応に事なかれ主義なものです。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2024年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過すために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#2/13)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#2/11)として守ります。

四旬節(#2/14～#3/23)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#2/14)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#3/24～3/30)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#3/24)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#3/28)、十字架にかかられた受苦日(#3/29)と過ごしていきます。

復活節(#3/31～#5/18)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#3/31)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/9)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#5/12)となります。

聖霊降臨節(#5/19～#11/30)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#5/19)から

始まり、三位一体主日(#5/26)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#12/1～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/22)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/12・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/9・6月第二)
父の日(6/16・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/24・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日)
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)
聖書愛読週間(#3/17～23)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)
最後の晩餐集会(#3月28日夕)
召天者合同記念礼拝(#6/9・6月第二)
弾圧記念礼拝(#6月23日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月7日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/15・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/3・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし
私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

しゅ
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、ひとびとを救い、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

